

「中野市まちづくり基本計画（案）」に対する パブリックコメント手続の実施結果

「中野市まちづくり基本計画（案）」に対する貴重なご意見をお寄せいただき誠にありがとうございました。

いただいたご意見の概要と市の考え方を取りまとめましたので公表します。

なお、ご意見の一部については、趣旨を損なわない範囲で要約又は集約して掲載させていただきましたので、ご了承ください。

- 1 募集期間 令和5年1月6日（金）～令和5年1月27日（金）
- 2 募集方法 郵送、FAX、電子メール、ながの電子申請サービス及び持参による方法
- 3 募集結果

- (1) 提出者数 1名
- (2) 意見数 5件
- (3) 提出方法別意見数

提出方法	提出者数	意見数
郵送	0人	0件
FAX	0人	0件
電子メール	0人	0件
ながの電子申請サービス	0人	0件
持参	1人	5件
(計)	1人	5件

- (4) 項目別意見数 ※必要に応じて記載

項目	意見数
全般的な事項	5件
(計)	5件

- 4 計画（案）を修正した箇所 修正した箇所はありません
- 5 意見の概要とそれに対する市の考え方 別紙のとおり

問い合わせ先

中野市建設水道部都市計画課監理計画係
電話 0269-22-2111（内線269）
FAX 0269-22-5925
電子メール toshikei@city.nakano.nagano.jp

「中野市まちづくり基本計画（案）」に関する意見の概要とそれに対する市の考え方

■計画全般に関する事項

No	意見の概要	市の考え方
1	<p>まちづくり基本計画（案）を確定するには時期尚早です。まだまだ、検討課題が山積していますし、内容がまとまっていません。R6年3月を目途に確定されるよう再検討をお願いいたします。</p>	<p>本計画は、令和5年4月公表に向け、令和3年度から令和4年度の2か年にかけて策定を行い、庁内だけでなく、外部の有識者を含めた中でも検討を重ねてまいりましたので、再検討は考えておりません。</p> <p>なお、都市計画マスタープラン編は概ね10年後、立地適正化計画編は概ね5年ごとに見直しを予定しており、社会・経済情勢の変化や、計画に掲げた施策の進捗状況を踏まえて見直しを実施していきます。</p>
2	<p>市長が音頭を取り、原案を見直す一方で、何をどう改訂すべきか、市議会等で徹底した審議をお願いしたいと思います。また、審議過程は市民にお知らせ願いたいと思います。今の定例の市議会報告では審議したことは分かりますが、審議の内容が読み取れません。</p>	<p>本計画は市議会の議決事項ではありませんが、令和4年2月と令和5年1月に市議会全員協議会で議論いただいております。全員協議会での主な意見は中野市公式ホームページで公表して参ります。</p>
3	<p>まちづくりの方向性を単に示すだけではなく、何故そうするのか、社会情勢の変化や当市の実情を勘案しながら計画の質を高め、予算的にも行程的にも説得力あるものにして頂きたいと思います。</p>	<p>本計画は、都市計画法第18条の2の規定により、中野市の都市計画に関する基本的な方針を定める「都市計画マスタープラン」の見直しと、都市全体の観点から居住や福祉、医療、商業等の都市機能の立地、公共交通の充実等に関して包括的に計画する「立地適正化計画」の2編から構成しております。人口減少社会においては、空き家や空きスペース、未利用の公共施設、公共インフラが増大することが懸念されています。簡単に言えば、「まちをコンパクトにする」ことを目標としております。</p> <p>まちづくりの方向性については、市の現況や各種指標の分析、また国や県における政策等も整理したうえでまちづくりの課題を抽</p>

		<p>出し、課題解決に向けた道筋を示しています。</p> <p>具体的な施策としては、中野市総合計画との整合を図ったうえで必要に応じて予算措置等を行い、各施策を進めていくこととなりますのでご理解願います。</p>
4	<p>中野市から県や国にも適切な提案ができるし、まちづくり計画の実効性が上がると思います。ましてやグローバル化の時代ですから、次代を担う郷土の若者が東京などに出なくても、郷土で郷土のために、国内は勿論、諸外国との交流促進といった活躍ができるように道を開くべきです。地域への定住、地域での子育てが進めば農村集落は過疎化から脱却できます。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後研究して参ります。</p>
5	<p>目指すべき未来の環境下では、より質の高い米の生産も夢ではなく、我が国の安全保障上の立ち位置を良くするであろうし、我が国の存在感も増であろうし、農村等集落の過疎化や東京一極集中などの是正も可能なはず。SDGsを考慮すれば、無駄を伴う大量生産や大量消費は避けなければなりません。多様な生物を営む水田には量より質を尊ぶ習慣を生み出す力がありはしないかと期待しています。そして、長寿化したお年寄りが労働集約的に収穫を行うことも可能です。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後研究して参ります。</p>